

基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫
～主体的・対話的で、深い学びを通して～

I 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して、基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫を考える。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践及び研究を行う。

2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、研究のねらいに迫る。

[1 1月「器械運動」(マット運動) 山梨南中学校 三枝 まり子 教諭]

[2月「武道」(柔道) 山梨南中学校 森脇 雅人 教諭]

- (2) 各校による基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫についての取り組み実践や学習カード等の情報交換、先進校の文献や資料等を参考にして研究を深める。

3 理論研究に基づいた授業実践について

授業では、各グループとも生き生きとした生徒主体の授業が展開され、有意義であった。一人一人に役割を持たせ、活動が行えた。また掲示物の工夫やタブレットの活用が有効的に使用されていた。生徒同士で話し合いや学び合いができ生徒一人一人にあった課題解決の場面が見られた。しかし、話し合いの時間の使い方が長くなってしまい運動量が少なくなってしまう。課題解決のための「ジグソー法」では、生徒が目標を達成しようと自分の役割を意識して活動していた。研究会では、各校の実態に応じた授業実践と情報交換を頻繁に行い、共通認識を持つ中でお互いに学び合いながら研究を進めてきた。情報交換の中で得られた知識や研究内容を、自分の学校の実態に合わせて実践していきたい。

II 成果と課題

成果について、話し合い活動や学び合い活動を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びの授業実践をし、基礎的な技能の定着を目指し授業の工夫を行ってきた。掲示物やICT機器を活用し、自己観察や他者観察をする場を設けた。仲間の技能からよい動きを学んだり、掲示物を見ながら確認をしたり、ICT機器を活用し自分の動きを確認することで、自己の課題と向き合い知識を実践的に活用する学習を充実させた。学習を振り返る場面では、課題解決の過程を振り返るとともに、自他の課題を見つめ直しながら新たな課題を設定して、主体的な学びができるよう工夫した。

一方で授業の活動の場面で運動量の確保について課題である。仲間との学び合いの時間や掲示物を確認したり、ICT機器を利用し動きの確認をしたりする時間が多くなると運動量が減ってしまう。単元によっては話し合いや学び合いが長くなっても運動量の確保ができるものもあるが、すべての単元で運動量の確保をする必要がある。

Ⅲ 成果物

研究授業①

- (1) 単元名「器械体操」(マット運動) 中学2年生
- (2) 授業者 山梨南中学校 三枝 まり子 教諭
- (3) テーマ ～基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫～

ア、授業の流れ

- ・①集団ランニング②あいさつ・出欠確認・健康観察③基礎体力トレーニング
- ・本時の学習の確認

「お互いに教え合ったり補助し合ったり、仲間の学習を援助しよう」

- ・技能グループで考えてきた技の行い方や補助の仕方をグループ内で確認し、技を練習する。
- ・掲示用資料を用いて口頭で説明したり、実際に演技したりしながらポイントを教え合うなど、工夫してグループ内に説明する。
- ・タブレットで技を撮影してテレビ画面に映し出す。模範演技の映像と比較し、違いを指摘し合う。アドバイスされたことをカードに書き出す。
- ・映像で見た自分の演技と、アドバイスを元に、グループで繰り返し練習を行う。
- ・片付け・本時の反省

イ、「主体的・対話的で深い学び」に迫る手立て

- ・掲示用資料とICT機器を活用し、話し合いの場面で使用。
- ・「ジグソー法」を使い、生徒が主体的に指導、学び合いを行う。

ウ、教材教具等の工夫

- ・指導見本となる映像を大きな画面で常に確認ができるよう場の設定を行った。

研究授業 指導案検討

- (1) 単元名「武道」(柔道)
- (2) 授業者 山梨南中学校 森脇 雅人 教諭
- (3) テーマ ～基礎・基本の定着を目指した授業の改善・工夫～

ア、授業の流れ

- ・柔道の授業を通して技の習得。さらに試合の審判を行うことで技の完成度を見極めることができたり、仲間に説明したりできるようにする。
- ・掲示用資料や生徒の学習カードの活用

イ、「主体的・対話的で深い学び」に迫る手立て

- ・技の習得ができるよう資料等を活用しながら細かく指導していく。

ウ、来年度に向けて

- ・来年度の授業に向け各校で実践している学習カードや掲示資料などを持ち寄り生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう研究を深めていく。

〔部長 武藤 拓馬〕